

2 岩倉使節団の帰国は日本の政治にどのような影響をもたらしたか

P.174~175

<岩倉使節団>

1871年～1873年

岩倉使節団

の派遣

メンバー：(**岩倉具視** ・ **大久保利通** ・ **木戸孝允**) など

目的：① 欧米の進んだ (**政治・文化 など**) を体験する

② (**条約改正**) の予備交渉を進める

※ 日米修好通商条約

不平等な内容は？

成功 ・ **失敗** ・ ・ ・ 国内の近代化の必要性を痛感

<士族の不満と反乱>

鎖国を続ける朝鮮に対して

国力の充実を急ぎ、武力の行使を避けようとする主張 (= 内治論)

・・・ 岩倉具視や大久保利通ら

※ 二人の共通点は？

武力で開国をせまろうとする主張 (= **征韓論**)

・・・ 西郷隆盛や板垣退助など

1873年 明治六年の政変 = 内治論と征韓論の争い

→ 西郷隆盛の朝鮮派遣が取りやめに

(**西郷隆盛**) ・ (**板垣退助**) らが政府を去る

↓
求められてリーダーに
武力で政府と対抗

⇨ 別の方法で政府と対抗

1877年 鹿児島・熊本で士族による反政府行動 =

西南戦争

※ 秩禄処分や廃刀令などで不満をもつ

新政府軍が勝利・・・ これ以降、士族の反乱がおさまる